

**令和3年度**

# 『特別支援学校に在籍する児童・生徒の理解教育充実事業』

## 報告書

### ＜交流協力校＞

北区立十条台小学校  
北区立滝野川第二小学校  
北区立滝野川紅葉中学校  
北区立十条富士見中学校  
東京朝鮮中高級学校  
順天中学校・高等学校  
東京成徳大学

### ＜地域推進校＞

東京都立王子特別支援学校

## はじめに

東京都立王子特別支援学校

校長 久保井 礼

はじめに、本報告書を作成するにあたり、交流協力校の校長先生方をはじめ、御支援・御協力をいただきました皆様より、御寄稿いただきましたことに厚く御礼申し上げます。また、実際の交流は少ないものとなりましたが、2月3日に行われました「第二回 交流教育連絡会」におきまして、御参加いただきました関係者の皆様より、今後の交流教育の充実・発展につながるお言葉をいただきましたことに、あらためて感謝申し上げます。報告会でも申し上げました通り、GIGA スクール端末を利用したオンライン交流や、動画による学校紹介も行われていることなど、新たな交流のスタイルが確立しつつあります。オンラインでの交流等では、視聴を通して、それぞれの学校生活の様子を知り、また実際に同じ地域で生活していることなど、相互の理解が図られることが望まれます。地域の皆様や校内PTAの方々のあたたかな御支援のもと、地域で交流を進める良さを更に充実させ、工夫した活動が実践できるよう、今後も努力してまいります。

## 交流協力校との交流 1

### <北区立十条台小学校>

#### 「間接交流の充実に取り組んだ一年」

北区立十条台小学校

校長 高橋 基夫

本年度も、それぞれの諸学校・PTA の皆様の「交流活動」の実施、様々にご対応ありがとうございました。

本校は、例年、3年生と2年生が「交流活動」をお願いしています。今年度も、そのような予定で進めてまいりましたが、「新型コロナウイルス」の関係で今年度も直接の交流はすべて中止となりました。

状況的には、夏季の8月に中旬には、東京都新規感染者数が6,000人に迫る勢いでした。その後、急速に新規感染者数が減少し、10月1日には、「緊急事態宣言」が一時すべて解除されました。

しかし、ほっとしたのも束の間で、その後再び、感染力の強い、オミクロン株が猛威を振るいはじめ、「まん延防止等重点措置」が復活し、その直後2月には、東京都新規感染者数が20,000人を超えてしまいました。

このように、日々「コロナ禍」が日常となっておりましたので、「Withコロナ」の「交流」活動を考えざるをおえませんでした。

そこで、直接交流は厳しいので、間接交流を充実させることとし、各担任と特別支援コーディネーターの養護教諭が智慧を出し合い、「お手紙交流」を実施させて頂く事になりました。

「お手紙交流」は、それぞれの学年の子供たちが、一言メッセージをカードに書き、模造紙大の紙に貼り付けてお届けし、お互いの思いを伝え合うという「交流」方法です。

お互いの、優しさの伝わるメッセージが、コロナ禍にあって、心温まる「充実の交流」へと繋げることができたと思います。

尚、次年度から、荒川小学校と十条台小学校が統合され、新しい学校「十条小学校」として、開校されます。ひき続きの「交流」を継承していますので、今後ともよろしくお願いいたします。

北区立十条台小学校  
PTA 会長 吉田佳子

近隣である都立学校と区立学校の交流はとても重要な取り組みです。

十条台小学校のように特別支援学級を併設していない学校にとって、王子特別支援学校の皆様との交流は、より広い社会性を学ぶ良い機会となり、子ども達の良い学びとなっています。人が人を思い寄り添い生きていくことの大切さを学ぶことができるこの事業に感謝しています。

子ども達の交流を見ておきますと、初めてとは思えない垣根のない笑顔にはっとさせられます。

日頃から自身を取り巻く周りのことだけに捉われ、学校や地域の輪のまたそれよりも一層大きな社会の輪に至るまで考えを廻らすことを忘れがちです。

この交流事業を通じて、子ども達が互いを思いやり、あらゆる場面で自ら考え行動できる勇気と優しさを培い、社会に貢献できる人として育ててくれることを願っています。

## 交流協力校との交流2

### <北区立滝野川第二小学校>

北区立滝野川第二小学校

副校長 小杉 晃

なかなか出口の見えない新型コロナウイルス感染症のまん延により、交流活動も展開しづらい状況の中、本年度は、本校の展覧会への参加と都立王子特別支援学校からの学校紹介新聞にて交流活動を行いました。

令和3年12月の展覧会では、都立王子特別支援学校からカラフルな作品を多数持ち込んでいただき、一つのコーナーとして展示しました。本校児童はひとつひとつが発想豊かな作品に興味をもって見入り、保護者のみなさまにも鑑賞していただきました。交流活動のひとつをご理解いただくこともできました。

また、新聞での交流活動から、児童は日常の学校生活を知ることができました。都立王子特別支援学校の子どもたちが、明るく豊かな表情で学習（音楽・図工・体育等）に取り組んでいることがうかがえました。また4年生は、自分たちが運動会で表現したエイサーを、都立王子特別支援学校の子どもたちも取り組んでいたことに共感していました。

どの子どもたちも明るく幸せそうな表情で、学校生活を送っていること、新聞から十分に伝わってきました。

## 交流協力校との交流 3

### <北区立滝野川紅葉中学校>

「心のバリアフリー」を目指して

北区立滝野川紅葉中学校

校長 井口 尚明

コロナ禍のためここ2年間は実施できていませんが、本校の3年生は王子特別支援学校の中学部と毎年交流会を実施しています。簡単に紹介しますと、最初にグループに分かれて歌やダンスをお互いに披露したり、メダルなどの手作りプレゼントをお互いに交換したりします。その後、全体が一堂に会して、合唱の交換をします。令和元年の交流では、王特生が「ゆうゆう」を、滝紅中生が「絆」を大合唱して大いに盛り上がりました。

残念ながら直接交流ができませんので、今年度は王特の先生にお越し頂いて「障害」について理解を深める講話をして頂きました。そして滝紅中の3年生より王特生の皆さんに心を込めて絵手紙をプレゼントしました。そのお礼として、王特生からあたたかみのある手作りはがきが届きました。みんなうれしそうに受け取っていました。

お互いの人権を認め合い、誰もが生き生きと人生をおくることのできる共生社会の実現には「心のバリアフリー」が不可欠です。今後も様々な人たちとの交流やコミュニケーションする機会を大切にして、共生社会の一員としての心構えを高めていきたいです。

## 交流協力校との交流4

### 北区立十条富士見中学校

「まなび・ささえ・つなぐ」

北区立十条富士見中学校  
校長 松本 洋人

都立王子特別支援学校が、多くの学校や関係の団体と精力的に交流活動を行うことを通して、貴校の子供たちを始めとして、多くの児童・生徒の健やかな成長と人格形成に大きく寄与されていることに深く感謝申し上げます。

また、学校を越えて、相互の教職員・P T A・地域の方々のネットワークも広げ、深めていただいていることに厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が世界を襲って2年が経ち、学校教育はもとより社会全体が大きな影響を受けています。このような状況の中、貴校の高等部との交流やP T A同士の楽しい研修にも制限がかかり、思うような活動ができなかったことが悔やまれます。

しかし、今年度も副籍交流も含めて、連携や交流の視点から令和元年度に新設した「作品展示週間」に高等部の生徒会の皆さんの作品を展示させていただく機会と、貴校の生徒・保護者・先生方にも鑑賞していただくことができました。

今後もコロナ禍がどのようになるか分かりませんが、視点を変えたり新しい発想をもったりして子供たちの健やかな成長のための連携を図りたいと思います。



本校作品展に飾られた都立王子特別支援学校の作品

## 交流協力校との交流5

### ＜東京朝鮮中高級学校＞

#### 「交流を続ける意義」

東京朝鮮中高級学校  
中級部 教務主任 趙鮮明

本年度もコロナ禍の中でどのような交流活動を行えばいいか王子特別支援学校の先生と相談しながら貴重な機会を生徒たちに与えられたことをうれしく思います。ありがとうございます。本年度も直接会って話したりお互いの文化などを教えあうなどの交流を行うことが難しい中でビデオレターを交換することになりました。

まず王子特別支援学校の方から送られてきたビデオを中級部の全生徒たちが各教室で視聴いたしました。生徒たちは自分たちとは少し違う日常を過ごす特別支援学校の生徒たちの姿を真剣な面持ちで見っていました。

次にビデオレターに対する感謝の気持ちとメッセージ、自分たちの文化を表す舞踊部の踊りをビデオにおさめお返事させていただきました。

交流の意義は自分とは違う他者を理解し合い、助け合いの気持ちを育むことだと思います。直接会うことが難しい今でもお互いを理解しあう大切さを生徒たちに少しでも与えられてよかったと思います。ありがとうございました。



## 交流協力校との交流6

### ＜順天中学高等学校＞

#### 「王子特別支援学校と順天高校との交流について」

順天中学高等学校

副校長 片倉 敦

順天中学高等学校と王子特別支援学校は同じ北区に所在し、地域も近く協力校として毎年有意義な交流しておりましたが、誠に残念ながら、昨年今年とコロナ禍のため対面での交流ができない状況が続いています。

それまでは、順天の文化祭に支援学校の生徒諸君が『革細工作り』で参加してくださり、例年7月に行われる王子特別支援学校の『夏祭り』では吹奏楽部やバトン部の生徒も応援に駆け付け、一緒にヨサコイを踊ることができ、模擬店のお手伝いで一緒に楽しむことができました。

早く、この感染症パンデミックが治まり、以前のような交流ができることを望んでおりますが、手をこまねいてはいけません。このような中でも可能な交流の方法を模索しながら前に進んで行こうではありませんか。

本校では毎年多くのボランティアプログラムを生徒達に紹介していますが、この王子特別支援養護学校との交流プログラムは人気メニューの定番となっています。毎年先輩から後輩へ、その楽しさが伝えられているからだと思います。

交流は両校の生徒たちや先生方の熱い想いと願いが一致していなければできないことです。これからも、新しい交流の仕方について知恵を出し合い交流を続けていきたいと思っております。

## 交流協力校との交流 7

### ＜東京成徳大学＞

「これからもご近所付き合いをおねがいします。」

東京成徳大学子ども学部

教授 塙 和明

御校と道路を隔てた反対側にあるのが東京成徳大学です。フェンス越しに大学生のお兄さん、お姉さんが楽しそうに談笑しながら歩く姿は見たことがあると思います。

本学では、毎年、夏祭りのボランティアで子ども学部の学生諸君がお祭りの後の片付けのお手伝いをさせて戴いています。生徒さんがお祭りを楽しんでいる姿を間近に見て、いろいろなお手伝いができた喜びを語ってくれています。今年度はコロナ禍の影響のため、夏祭りがなかったということでお手伝いができませんでしたでしたが、コロナ禍が終息した時には是非とも参加させて戴きたいと考えています。

また、高等部の生徒さんが清掃実習で本学のカフェテリア(食堂)などをきれいに掃除してくれています。生徒さんが実習している姿は、大学生のお兄さん、お姉さんの心に響くものがあります。この活動も今年度はコロナ禍の影響で入構制限があり実施できませんでした。これも早く再開できればと思います。

本学では、子ども学部やスポーツ系の学科がありますので、今後ともいろいろな形で親しい交流をさらに発展させていければと考えています。これからもご近所付き合いをよろしく願います。

今年度、本校PTA主催のあけぼの祭りでは、事前収録の映像を配信する形でのオンライン祭りを行いました。カウントダウン映像・ヒーローショー・教員バンド、PTAのキャラクター「プリちゃんを探せ」など、様々なコンテンツを配信し、地域の方々にもご覧いただけるように配信しました。例年のような対面でのお祭りではない為、滝野川紅葉中学校、順天高等学校、東京成徳大学の学生さんとの直接交流が行えずとても残念でした。

放課後活動では、順天中学高等学校と「よさこい」での交流ができずこちらも残念でしたが、十条富士見中学校PTAの皆さんとは、本校PTA主催の講習会にリモート参加してくださり、新しい形での交流ができましたことは、今後の交流につながる第一歩となりました。

また、学校間交流校PTAの皆さんとは交流が出来ませんでした。次年度以降、リモートでの交流など新しい形での交流が出来ますように進めていきたいと思っております。

これからも、PTA活動を通して地域の学校のPTAや児童・生徒、保護者の皆様と交流する機会を増やせるように、今後ともご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 東京都立王子特別支援学校

〒114-0033 東京都北区十条台1-8-41

電話 03-3909-8777 Fax 03-3909-8665

一般メールボックス：[ml-oji-sh@section.metro.tokyo.jp](mailto:ml-oji-sh@section.metro.tokyo.jp)

入学・支援・教育相談関係メールボックス：[ml-oji-shien@section.metro.tokyo.jp](mailto:ml-oji-shien@section.metro.tokyo.jp)

ホームページアドレス：<http://www.oji-sh.metro.tokyo.jp/>

公式 Twitter：[https://twitter.com/ouji\\_tokushi](https://twitter.com/ouji_tokushi)